

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

2月15日

「聖書的な教会建設③」

第3聖日

第3391号

聖
言

私たちは、この御子のうちにあつて、御子の血による贖い、すなわち罪の赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。

エペソ1:7

礼拝の恵み 第九章 第七部 礼拝の仕方
三節 礼拝は知的であるべきである
(a) 自分が語る言葉について、はつきり自覚しているべきである。言葉は思想の結果である。あるいは、そうあるべきである。思考がぼんやりしていると、それに応じて語ることもぼんやりしている。だれでも集会の礼拝を表現しようとする場合は、自分が何故その場所にいるのか、それから集会の目的を知るべきである。そのような集まりに関係のない事からは、それゆえ言わずにおくべきである。こうした集会にしばしば見られる混乱の多くは、この簡単なテストで除くことができよう。
(b) 指定する賛美歌について、はつきり自覚しているべきである。賛美歌集は良いものであるが、全ての賛美歌がそのときの目的合うわけでない。適当賛美歌をそのときに応じて選ぶには、それゆえに、霊的な知識が必要である。どの賛美歌も一定の思想があり、特別の使命があり、一定の目的を果たすのに用いられる。それゆえ、集会が自分の感動と賛美と礼拝とを表現し得るためには、賛美歌を賢明に知的に使用する必要がある。
(c) 集会の始まる時刻をはつきり知っているべきである。そしてその時刻より以前にそこにいるべきである。こうした集会が、だれか遅刻したために妨げることがよくある。常識とクリスチャンとしての慎重さと考慮とを少し使えば定刻までに来ることはたやすいことなのに。集会前に黙想の静けさがあることは礼拝をおこなうための最もよい準備となる。(Apg 13:15 「礼拝、」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇二五年一月一八日午前二〇時 礼拝 山本牧師

「聖書的な教会建設②」

「私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。」

(エペソ一ノ三)

第一 完了した処理

「大いなるわざはすでにおわれり。われらは主のもの。主はわれらのもの。」信者は救われています。処理は完了し、みわざはなされました。信者はすぐわれたその瞬間に証印をおされました。

第二 所有、彼は今では神にぞくしています。神の所有物なのです。彼は所有主を変えました。彼に関する限り、サタンはもはや、どのような権利を持っていないのです。彼は新しい主人―神―を持つているのです。

第三 安全 証印を押された者は安全です。神は決して彼をさらせたりはなさいません。「わたしは彼らに永遠のいのちをあたえます。彼らは決して滅びることがなく」。証印を押された者は、今も永遠に至るまで救われています。彼は父なる神の守りの中にあつて安全です。

海外に行くときにはパスポートを要です。去年「月に韓国学生宣教が駅前で伝道をしてビラをくばっていたら五、六人の警察官をきて、パスポートを見せてくださいと言われました。海外に行ったときには必ず携帯をしないなればなりません。身分証明書、免許書もそうです。私がある

名であるとかどの学校を卒業した、財産はいくらあるか。と言うこと以上に、日本国の印鑑が押されていることが一番重要なのです。後藤健治さんが拉致されたとき日本国が責任をもって対応しなければならぬのです。

しかし、パスポートは最高「〇年」で、それを過ぎると再申請をしなければなりません。また、どこにしまったかわからなくなります。そのてん、聖霊の印は真理のことば、救いの福音を聞き、それを信じたことよつて約束の聖霊をもつて証印されたのです。国際会館の事務所に行かなくてもいいのです。今聖書のことば、神の御子が人となり、人間と同じ生活をされ、一点の罪を犯さず、人の罪の身代わりに十字架に掛けられ死んで三日目によみがえり、罪の赦しと永遠の生命を約束された。これを信じるものは聖霊の証印を心に押されるのです。なくすことはありません。「〇年たつたといつて更新する必要はありません」。

◎日は節分でした。長田神社に「〇万〇千人」の参拝がありました。鬼のもつた松明を玄関につるしていると一年無病息災と保証されます。しかし、病氣や事故になつたらまた死んだなら長田神社は保証してくれるでしょうか。絶対してくれません。しかし、聖霊の証印を押された者は罪から救われたことを確信できます。天地を創造された神様のお墨付きです。

第二はサタンの所有から神様の所有に代わりました。この教会は「二、三坪」一億以上のかちがあります。宗教法人イエス・キリストの所有です。他の人に代わつたりしたら大変です。イエス様を信じない前は、私たちは悪魔の所有でした。だからこの世の楽しみ、不道德に振り回されてきました。

しかし、今は神の所有にされました。ナイアガラの滝でこれは私のお父さんが作ったのだと変なことを言う人がいました。ある人はよっぽど大金持ちだとおもっていました。そうでなく、天地を創造した神様が天のお父様と申しんじているクリスチャンでした。神の所有となると世界観が変わります。すべてが神様のものであるのですべてを大事にし、だれでも愛し合うことができます。現代は復讐の連鎖の時代です。世界を創造した神様を認めないゆえです。

第三は安全を確保されます。パスポートをもっていると海外にいつでも安全に旅ができます。それ以上に聖霊の証印をもっているとしたとえ死がおとずれようとも死の先にもとにもいてくださるお方を信じられるので安全です。

聖霊の証印は特別な人しか与えられないものではありません。イエス様を信じて回心したならだれにでも心にあたえられるのです。教会の全員に与えられるのです。聖霊の証印を受けた人が集まるのが教会です。差別でありませぬ。神様はそれをお喜びになるのです。もともと、神の子であるのに、つみにより神様からさまよいでいたのです。それがこうして教会にきて真理のことば、救いの福音を聞きそれを受け入れ、聖霊の証印をこころに押されたのです。本来の姿、いやとおとい御子の血の贖いをおして神の子となりました。だれでも信じさえすれば無代かであたえられるのです

二〇一四年一月一日午後七時 祈禱会 山本牧師

「オホラとオホリバの淫行」(エゼキエル連講三七回)

「彼は妻がなくなつた翌朝、その通りにおこなつた。妻がなくなつたというのに、悲しみのしぐさを少しもしない預言者の異

常な行動に、人々は「あなたがしていることは、私たちにどうしてどんな意味があるのか、説明してくれませんか。」と尋ねた。人々が不審に思つて尋ねてくることこそ、彼の異常な行為の狙いであつた。そこで彼はその行為について主のことばを語る。まず「エゼキエルはあなたがたのためのしるしとなり、彼がしたとおりを、あなたがたもするようになる」(25)と言われているように、彼に起こつたことはバビロン人のためのしるしである。彼の妻の死はエルサレムの滅亡の預言であつた。エゼキエルの愛したつていた妻が亡くなつたように、彼らが「愛し、心に慕つている」エルサレムと神殿は異邦人によつて汚されて破壊され、また彼らの「息子や娘」に等しいその住民は剣で倒される。その悲報を受けるとき彼らは預言者がしたように、嘆かず、涙を流さず、ターバンを外さず、サンダルを脱がず、人々からのパンを食べることもしない。というのは「自分たちの咎のために朽ち果て、互いに嘆きあうようになる。」(26)、つまりエルサレムの滅亡において神のさばきが現実を示されるとき、自分のとがの重さに打ちひしがれ、エルサレムのことを嘆き悲しむ余裕もなくなる。エルサレムの滅亡の日は、人々にとつて悲しみと絶望の日。その中にも新しい時代の希望があることをほのめかす。主はエゼキエルに「その日、のがれた者が、この知らせを告げにあなたのもとにやつて来た。その日、あなたは逃れて来た者に口を開いて言え。もう黙つていてはならない。」(26, 27)と言われる。それまでは沈黙していた預言者も、エルサレムの滅亡を聞くと口を開いて大々的に預言を始める。このことばの成就是 33 章に記される。「私たちが捕囚となつて 12 年目の第十の月の 5 日、エルサレムからのがれた者が、私のもとに来て、「町は占領された」と言つた。そののがれた者が来る前の夕方、主の御手が私の上にある、朝になつて彼がわたしのもとに来る前に、私の口は開かれた。こうして、私の口は開かれ、もう私は黙つていなかった」(21、22)。彼はそれ以後、堰をき

つたようにバビロンの捕囚の民に将来の回復の約束を語る。しかし事態が破局にいたるまでバビロンのユダヤ人は、エルサレムと神殿にあこがれ、心の支えとしていた。しかし彼らの「力とするもの、彼らの力とするもの、栄えに満ちた喜び、あいするもの、心に慕うもの」(25)は、取り去られる。いつまでもそんなものに執着してはならない。目を新たな方向にむけなければならぬ。エゼキエルの行動じゃ、彼らがこれから新しいイスラエルになることを自覚し、罪を悔い改め、将来の回復を待ち望むようにというしるしでもあった。

エレミヤ 52 : 5~7

エゼキエル 33 : 21 3 : 26

私ので泣くな。